Hyper Ing 2012

（”Hyper　Ing”は上高生を応援する先輩メッセージ”Ing”のパワーアップ号です）

上野高等学校進路指導部　vol.1　2012/8/26

文理・志望校決定特集１　学問の魅力を大学の先生にお聞きました！

7月12日(木)に2年生対象に大学の先生方の出張講義が行われました。進路主任冨澤が先生方に「上野高校の生徒に向けてメッセージを」とお願いしたところ、先生方が快く引き受けてくださいました。学問の面白さ、高校時代にやっておくことについてお聞きしました。(紹介順は一般的な学問紹介の順に従っています)

写真…講義の様子

小畑美貴先生（三重大学人文学部）

専門…理論言語学(特に人が生まれつき持っている言語に対する能力について)認知科学(特に言語と短期記憶の関係について)

「この学問のここが面白い！」という点

私の専門としている言語学・認知科学という分野は、ヒトそのものを研究対象としています。言語はヒトにのみ与えられた能力だからです。私達は、母語である日本語を話す際、無意識のうちに文法的な文を作り、状況に応じて表現を選択し、適切なイントネーションで発話します。この全体の作業に要する時間は、1秒もないでしょう。瞬時にかつ正確に文を作ることができるわけです。それに比べて、英語を話すときはどうでしょうか？時間をかけて文を作っても、文法を間違ってしまったり、相手にうまく伝わらなかったりと、何年もかけて必死に勉強しているのに、なかなかうまくいかないものです。私達が脳内に持っている母語を操る能力は、考えれば考えるほど、本当に"凄い"能力なのです。ヒトにのみ与えられた言語能力を解明することで、ヒトという生き物の特性の一端が明らかになると思うと、やりがいと興味が沸いてきます！

高校生の時にやっておくこと

「考える」習慣を付けてほしいと思います。高校までの勉強は、どちらかというと、受け身の勉強が多いように思われます。教科書を理解して、大事な個所 を覚える作業はもちろん大事です。しかし、大学の勉強は、まず、教科書を疑うことから始まります。疑う為には、なぜ疑わしいのか、他の人を説得できるような、理由や証拠を示す必要があります。その為には、自分の力で能動的に「考える」ことが必要なのです。今のうちから、日常生活で「当たり前」と思っていることに対して、「なぜ？」「どうして？」と考える習慣を付けておけば、大学での時間もきっと有意義なものになると思います。

辰巳智則先生（畿央大学）

専門…心理学(運動・教育・臨床)

「この学問のここが面白い！」という点：

生きていく中での喜怒哀楽の経験に意味を与え、感性を育ませてくれる学問のようです。様々な事柄に対し、謙虚なまなざしを持つことが求められる学問です。心理学は、人の心を悟るための学問ではありません。自らの好奇心の上に、学びの連鎖に身を置いているとの実感が伴ったとき、とても面白い学問だと思えるでしょう。

高校生の時にやっておくこと：

三重県立上野高等学校

酸いも甘いも、多様な経験と内省が重要です。例えば、勉強や部活動にやる気がなかったとしても、「なぜやる気がわかないのだろう」と自問して下さい。そこには既に心理学を研究する姿勢があるように思います。また、心理学以外の得意分野、もしくは好きな分野（数学・体育・音楽等）を持つことが重要です。それは、心理学にオリジナリティーをもたらすでしょう。

粕井みづほ先生（畿央大学）

専門…心理学（発達心理学　家族心理学）

「この学問のここが面白い！」という点：

子どもの発達や家族関係について研究しています。心理学という学問の窓を通して見ると、目の前の子どもたちや家族が違って見えてくる。その時間が面白い！！　またその経験で自分の考え方までが変わります。

高校生の時にやっておくこと：

様々なことに興味を持って生活すること、文字文化に親しんでおくことが大学でのすべての学びに必要だと思います。

千藤洋三先生（関西大学法学部）

専門…法律学（民法の中の家族法）

「この学問のここが面白い！」という点

夫婦や親子関係など家族をめぐる様々な法律上の課題を検討していくことに面白さを感じています。

高校生の時にやっておくこと

高等学校の授業を大事にすることが大切です。時間に余裕があればたくさんの文庫本（安く入手できるから）をお読みになり、人間への興味や関心をふくらませてください。期待しています。

小野由多加　先生（関西大学社会学部）

専門…広告研究。マーケティング・コミュニケーション。

「この学問のここが面白い！」という点

インターネットやテレビ、電車の中や待ちの中にまで溢れている広告は、「販売促進（売り上げを上げること）」のために行われている、という理解だけで「分かった」とできるでしょうか。一年間に一万種類以上のテレビCMが地上波民放には流れてますが、そのうちどの程度が成功しているのでしょうか。ことは一筋縄ではとらえ難いのです。

高校生の時にやっておくこと

どのような対象についてであっても集中力を培うことが大学での成果に対して大変重要で、充実度を左右することになると思います。ケータイ片手に生活することが当然視されていますが、人の思考はそのように絶え間なく寸断される仕組みとさほど相性がいいとも思われません。「我を忘れること」の大切さを充分に知って欲しいと思います。

柳沢卓　先生（奈良女子大学理学部）

専門…数学（非線型解析、偏微分方程式論）

主に、水や気体の挙動を記述する基礎方程式の数学的構造を研究対象としています。

「この学問のここが面白い！」という点

新たな数学的事実を「発見」出来たときは、たとえその事実がどんなにささやかであっても、とても嬉しいものです。更にその数学的事実に、何とか「証明」をつけることが出来たときは、何とも言えない達成感があります（残念ながら、めったに無いことなのですが・・・）。

高校生の時にやっておくこと

まずは、高校時代に良い友人を作っておくのはとても大切なことだと思います。学習に関しては、「疑問に思ったこと」、「なんだか良くわからないと感じたこと」を大切にして下さい。すぐに解決できなくても、疑問に思ったことは何なのか、何を良くわからないと感じたの

三重県立上野高等学校

か、を自分の言葉でできる限り明確に表現するよう努力してみて下さい。「わからない点」を的確に表現することができれば、解決まであと1歩という場合が多いのです。

堀内孝先生（三重大学大学院工学研究科）

専門…材料の構造や性質を分子レベルで探求する分野

「この学問のここが面白い！」という点

私が担当する分野はその中でも医療に役立つ生体材料の開発と評価を行っております。人工物を生体に入れると様々な応答が起こります。これらの解析は今までの概念を時としてひっくり返すダイナミクスがあります。

高校生の時にやっておくこと

様々な分野に興味を持ってください。

久松眞先生（三重大学生物資源学部）

専門…食品科学。食品微生物学。糖質化学

「この学問のここが面白い！」という点

身近なことが学問となっているので、皆さんにとっては一石二鳥になると思います。また、環境問題とも関係するので、このような分野に関心がある方も歓迎。

高校生の時にやっておくこと

広く知識を吸収する能力を身につけておく準備は必要と思ってます。だいたいの自分の好きな方向だけでも決められるように考えて、後は進学した分野でさらに具体的に絞り込めばそれでよいと思っています。

浅野恭代先生（畿央大学健康栄養学科管理栄養士養成コース）

専門…食育（各世代における食育、特に高齢者の食事支援。大豆発酵食品「テンペ」の調理性とスウィーツの開発）

「この学問のここが面白い！」という点

高齢者の日頃の食生活の分析をし、より健康維持をするための指導をする。学生とともに身体測定や面接による食事指導をしている。高齢者の方とのコミュニケーションを学んでもらっている。テンペのスウィーツを開発し、オープンキャンパスや学祭で試食してもらって評価してもらうことを目的にしている。

高校生の時にやっておくこと

栄養士というのは総合学問を必要とする仕事なので基礎である化学、生物をしっかり学んでもらうとともに、多方面に知的好奇心を持ってください。

堀浩樹先生（三重大学医学部医学科）

専門…小児科学、国際保健、医学教育

「この学問のここが面白い！」という点

人の命、健康に貢献できるというやりがい

高校生の時にやっておくこと

コミュニケーション力、探求心、他者への思いやりを身につけることができる学習。

竹山郁恵先生（三重県立看護大学）

専門…看護学（周手術期、急性期看護について）

「この学問のここが面白い！」という点

看護は人を対象とします。医学的な知識、心理学、社会学など

三重県立上野高等学校

様々な知識が必要になります。学んだ知識や技術をその人に合わせてどのように活用するか、応用が求められます。その人にあった、その人のための間がそれを見出し、患者さんがよい方向に進んでいくことにやりがいを感じ、またとてもうれしく思います。

高校生の時にやっておくこと

世の中には様々な人がいます。自分以外の人の意見を聞くことも大切ですし、自分がその人だったらどう思うか考えることも大切だと思います。

参加者の感想から…

大学の講義と高校の授業の違い

- 高校では先生が一方的に話をしていくことが多いけど、大学の講義では問いかけもあり、より理解が深められる。
- 覚えるとかそういうのじゃなくて、事実があってそれについてどう思うかって感じで、高校は考えるより覚えるだけど大学は覚えるより考える方が多くなるんだなあと思った。
- 「写せ」というのがなかった。教科書に載っているような少し現実の生活などと離れたことではなく、今に密着した世間に関する内容が多かった。個人の意見が多かった。
- 高校の授業は、まだだいぶ基本的な事しか習わないけど、大学は今実際に生じている社会問題を取り扱うということが実感できました。
- 資料やフィールドワークを重視していて、高校のようにつめこむ学習ではないと思った。

各講義の感想

- 小児がんの子が将来かかえる不安や、小児がんの子供へのケアがよくわかった。病棟保育士や院内学院について興味を持っていたけど、「チャイルド・ライフ・スペシャリスト」などは全然知らなかった。
- 朝ごはんの必要性やダイエットの間違ったやり方など知れてよかった。
- 「母性愛」はもとからあるけど教えないと育たない。
- 看護は直接人と関わる仕事でとてもやりがいがあると思った。
- 工学部はおもしろそうかなという興味ぐらいだったけど、現代の治療などいろいろなところで工学部の力が発揮されていると分かって、さらに興味を持った。
- 葉っぱが落ちることが数学的に解明されていないことには驚かされた。
- 環境問題はただ地球温暖化とかそういうことかと思っていたけれど化学やバイオテクノロジーなどとつながっていて難しかった。
- 本番で実力発揮できるリラックス法などを知れたので、部活の試合で試してみようと思った。
- 言語について興味があったので、聞いていて楽しかった。日本語はいつも使っているけど、知らないまま使っている文法がけっこうあって驚いた。
- 1 つの CM にいろいろなメッセージ、そのメッセージを伝えるためにストーリーがあり、たくさんのものがつめこまれているんだと思った。
- 「金融収益はどこから生まれてくるのか？」について、もっとくわしく学びたいと思いました。日本銀行券の発行高が約 79 兆円だと聞いて、ほとんどのお金が「数字で管理されている」ことがよくわかりました。大学の授業は面白いそうだと思います。

＊ご協力いただきました先生方にはこの場をお借りして感謝の意をお伝えしたいと思います。ありがとうございました。

大学は好きな勉強が思いっきりできる場所。興味が湧くことを探そう！

＊告知…”Hyper Ing”のバックナンバーは上野高等学校の HP の「進路指導室」のページで閲覧できます。

三重県立上野高等学校